

河野康子教授定年退職記念号に寄せて

荒谷, 裕子 / ARATANI, Hiroko

(出版者 / Publisher)

法学志林協会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法学志林 / Review of law and political sciences

(巻 / Volume)

115

(号 / Number)

1・2

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

2

(発行年 / Year)

2018-03-13

河野康子教授定年退職記念号に寄せて

法学部長 荒谷裕子

河野康子先生は、一九九三年四月、法政大学法学部に教授として着任され、二〇一七年三月末日に定年退職されるまで、ご専門である日本政治外交史を中心に、二四年という長きにわたって学生や院生を熱心に指導されとともに、政治学科主任、大学院主任、教授会副主任、法学部長、法政大学評議委員などをつとめられ、法学部と大学院の運営に多大な貢献をされました。また、二〇一四年からは、図書館長として、法政大学の教育・研究にかかわる図書館の環境の整備・充実に御尽力されました。私自身は所属学科、専門が違いため、先生と研究について議論を交わす機会はありませんでしたが、私が法政大学に赴任して以来、二〇年以上にわたって、学内の仕事をはじめ、公私にわたりいろいろ相談に乗っていただき、そのつど適切なアドバイスをいただくなど先生には大変お世話になりました。いつも穏やかで笑顔を絶やさず、柔軟でいて凜としてご自分のスタンスを崩さないその芯の強さは、範として特に私の印象に残っています。

先生は、学外においては、二〇〇九年から外務省のいわゆる日米「密約」問題に関する有職者委員、文部科学省の教科用図書検定調査審議会委員を務められたほか、二〇一五年からは、外務省の『日本外交文書』編集委員を務められるなど、日本政治外交史研究の第一人者として、戦後の日本政治外交史の研究において多大な業績を残してこられ

ました。その長年の研究が評価され、一九九五年には、御著書『沖縄返還をめぐる政治と外交―日米関係の文脈―』において大平正芳記念賞を受賞されました。

先生のご専門は、日本政治史と日本外交史で、戦後の日本の国内政治を、内政と外交との関連から長年研究されてこられました。その中心的なもののひとつが沖縄返還を中心とする外交史の研究であるといえましょう。先生は、アメリカ統治下の日米両国政府の沖縄に対する政策から、沖縄返還をめぐる日米外交交渉の経緯、今日に至るまでの日本の沖縄をめぐる外交政策等について、詳細に分析・研究をされてこられました。私は専門ではありませんので必ずしも正確に理解しているとはいえないかもしれませんが、先生の御著書、御論文を拝読して、一九七二年に沖縄がアメリカから返還されて三六年経てもなお未だ基地返還問題等多くの問題が解決されず現在に至っている複雑な背景をおぼろげながら伺い知ることができました。

定年後も外務省の『日本外交文書』編集委員として、引き続き日本の戦後外交史の研究に取り組まれると伺っております。かつての同僚の一人として、先生の益々のご健勝と一層のご活躍を祈念いたしております。

先生の学内外での貢献に対して、法学部教授会は、二〇一七年四月、先生を名誉教授に推薦することを決定し、大学よりその称号が授与されました。

本誌は、河野康子先生の偉大な業績と活躍を讃えるとともに、法学部へのご尽力に対して、法学部教授会一同、深甚なる感謝の意を込めて先生に捧げるものです。